

与田さんと みすゞさん

— 二人のまなざし —



金子みすゞ 写真提供：金子みすゞ著作保存会



与田準一 昭和6年「赤い鳥」編集記者時代

- 入場無料
- どなたでも参加できます

令和5年3月19日(日)

講師 矢崎節夫 氏

金子みすゞ記念館 館長

童謡詩人・児童文学作家

■ 時間:13:30~

■ 場所:みやま市立図書館2階「多目的ホール」

生き辛さが感じられる現代社会にあって、ますます新鮮な輝きを放つみすゞの詩。近代童謡が誕生した大正期において、金子みすゞの存在は「雲間の星のように」輝いていたのだが、彼女の早逝によって作品の大半は埋もれてしまった。みすゞの死から36年経った1966年、与田準一編集の「日本童謡集」に載ったみすゞの詩「大漁」に感銘を受けた矢崎節夫氏の「みすゞ探し」の日々が始まった。以来16年にわたる調査の結果、ついにみすゞの遺稿512編を発掘し、『金子みすゞ全集』（JULA出版局）として世に出した。

その一方矢崎氏自身は与田準一とも交流を深め、佐藤義美、まど・みちおに師事して児童文学者として活躍。講演会「与田さんとみすゞさん」では二人の詩人の人や動物、自然にむけた優しいまなざしを語る。

連絡先:みやま市立図書館 TEL 0944-64-1117